

4年生と院生が国際会議 EAC2016 で研究成果を発表

大学院1年の中田悠太さん、学部4年の南條優希さん、大井諒さんの3名が2016年9月4日から9日にフランス・トゥールで開催された **European Aerosol Conference 2016** にて研究成果を発表しました。帰国後、学生達は次のように感想を述べていました。海外に行って、英語力の大切さを肌で実感してきたようです。

中田悠太さん（大学院1年）

EAC2016 に参加して英語でのコミュニケーションが重要だと実感しました。国際会議なので、会話はすべて英語です。相手の話すスピードが早いと聞き取ることもできず、会話をすることも難しく感じました。中には、私が理解するのを待ってゆっくり話してくれる方もいるのですが、自分の単語力が足りずに何について話しているのかわからなくなってしまうこともありました。次回までに英語力を磨いて、自分の考えを相手に伝えられるようにしたいと思います。

南條優希さん（学部4年）

はじめて海外での学会発表に参加してみて、最も感じたことは英語での対話力、語彙力の無さです。学会用ポスターの作成を通じて、英文を書くこと、発言することは、少しは見に付けることができたと思っています。しかし、それだけでは、相手に伝えるといった点ではまだまだ力不足だと痛感しました。学生生活はまだ半分残されているので、今回見つけた反省を今後改善していけるよう学習に励みたいと思います。いい経験になりました。

大井諒さん（学部4年）

初の海外発表に参加して、最も感じたのは英語でのコミュニケーションの難しさです。日本で練習を何度も繰り返していたため、発表はできたと思います。相手の質問も少し理解でき、返答することができました。しかし、すべて理解できる訳ではなく、聞き取れず何度も聞き返すなどしてしまい、焦ってしまいました。先輩に通訳してもらい、なんとか質問に答えることが出来ましたが、英語で相手に伝える難しさを痛感しました。社会人になれば英語は必須だと思うので、それまでに勉強し、自分の考えを相手に伝えられるよう努力したいと思います。

